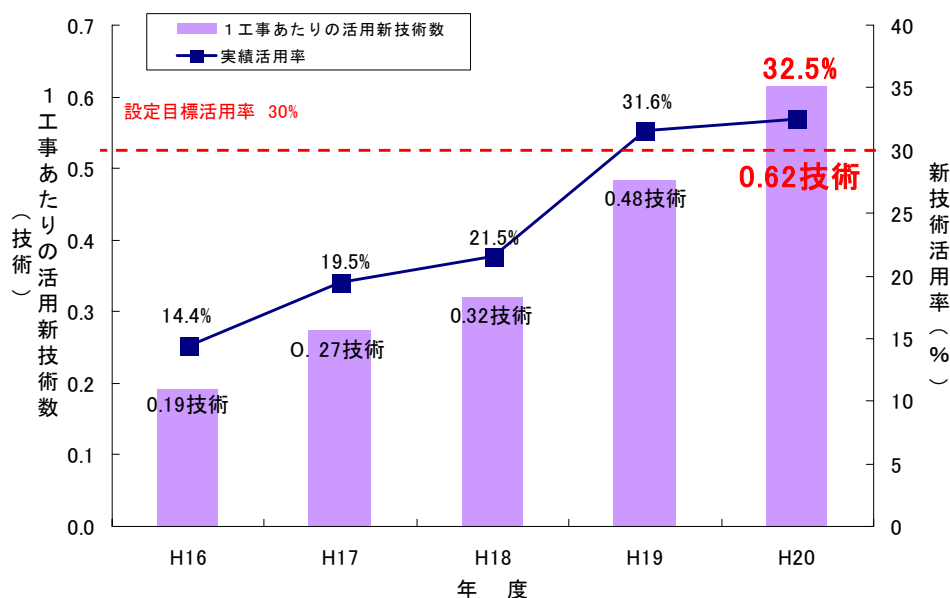


1. 新技術活用状況の推移

- 新技術活用率(新技術を活用した工事件数を総工事件数で除したもの)は平成20年度では32.5%となり、平成19年度の31.6%から0.9ポイント増加しました。
(国土交通省行政効率化推進計画(平成16年6月15日)(※1)に掲げた目標を引き続き達成しました。)
- 活用延べ新技術数(総工事で活用されたすべての新技術の総数)も年々増加し、平成20年度では8,879件となり、1工事あたりの活用新技術数は、平成20年度では0.62技術となり、平成19年度の0.48技術と比べ約1.3倍に増加しました。



新技術活用状況 (年度別)

新技術活用状況 (年度別)

新技術活用状況	H16	H17	H18	H19	H20
①総工事件数	14,764	13,748	12,648	13,453	14,435
②新技術活用件数 ※2	2,120	2,677	2,720	4,255	4,687
③活用延べ新技術数	2,827	3,763	4,063	6,501	8,879
新技術活用率 (②/①)	14.4%	19.5%	21.5%	31.6%	32.5%
1工事あたりの活用新技術数 (③/①)	0.19	0.27	0.32	0.48	0.62

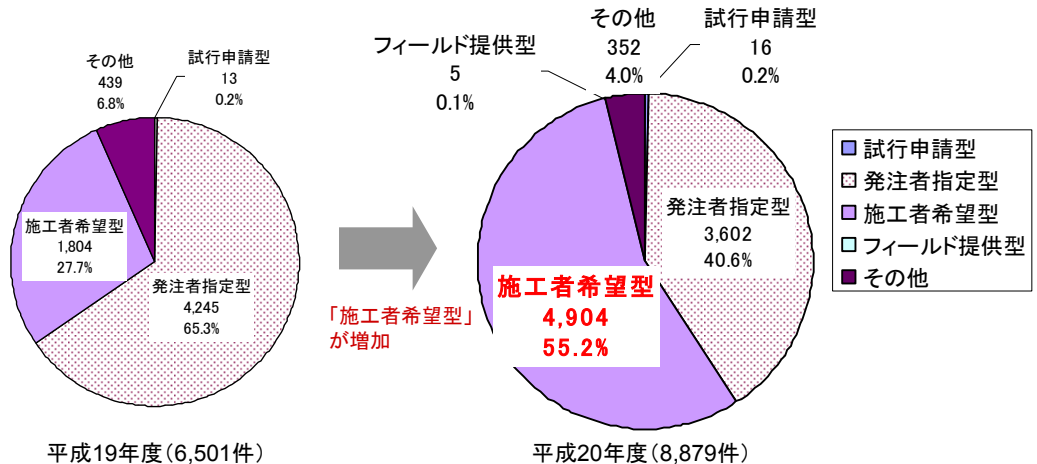
※1 国土交通省行政効率化推進計画(平成16年6月15日)より抜粋
経済性に優れた新技術の活用を促進するため、数値目標を設定し、一定割合の工事において新技術を試行する。(平成19年度までに新技術を試行・活用する工事件数の割合の目標を30%に設定。これを基に新技術の積極的な試行・活用を図る。)

※2 新技術活用件数とは、新技術を1件以上活用した工事の件数

2. 施工者による新技術に関する提案の増加

- 平成20年度の活用延べ新技術数8,879件を、新技術の活用型別(※3)にみると、以下のとおりです。

「施工者希望型」(入札契約の総合評価方式における技術提案、又は契約締結後における施工者からの技術提案に基づき、施工者が新技術を活用する)の割合が、平成20年度では55.2%となり、平成19年度の27.7%から大幅に増加しました。



活用延べ新技術数の活用型別内訳

- 上記のように「施工者希望型」の割合が増加した要因としては、国土交通省がこれまでに行ってきた、施工者による新技術の活用を促進するための取り組み(下記①～③)の効果も作用して、施工者からの新技術の活用に関する提案が増えたことが考えられます。

- ① 入札契約の総合評価方式において、施工者が新技術に関する技術提案を行った場合に加点。(※4)
(平成19年3月から平成21年1月にかけて各地方整備局で順次運用を開始)
- ② 施工者からの提案により、直轄工事で新技術を活用した場合に、工事成績評定で加点。
(平成18年9月より運用を開始)
- ③ 施工者・開発者・コンサルタントの方々に向けて、新技術の登録・活用方法や新技術活用時のインセンティブを分かりやすく説明したパンフレットを作成。
(平成20年10月作成)

※3 「公共工事等における新技術活用システム」の新技術の活用の型には、以下の4つがある。

- 施工者希望型: 入札契約の総合評価方式における技術提案又は契約締結後における施工者からの技術提案申請に基づき、施工者が新技術を活用する型。
- 発注者指定型: 直轄工事における現場ニーズ、行政ニーズにより必要となる新技術を発注者の指定により活用する型。
- 試験申請型: 直轄での活用実績が少ない(10件未満)の技術を対象に、NETIS申請者の試験申請に基づき試験を行う型。
- フィールド提供型: 現場ニーズ等により、各地方整備局等により、各地方整備局等がNETIS申請者から新技術提案の募集を行い、フィールドを提供し、活用する型。

※4 運用の有無、評価方法、配点等は各地方整備局等によって異なる。

3. 活用件数の多い新技術(上位20位の新技術)

- 活用延べ新技術数8,879件のうち、活用件数の上位20位の新技術は以下のとおりです。

平成20年度に最も活用件数が多かったのは、工事現場の仮設などに用いられる「手摺先行型足場」でした。その他に活用件数が多かった新技術は、コンクリートの打設や養生、型枠に関する新技術、道路付属物に関する新技術などでした。

活用件数の多い新技術(平成20年度)

	NETIS登録番号	技術名	副題	工種
1	KT-010074-A	手摺先行型足場	手摺先行型足場及び枠組足場用手すりわく	建築
2	TH-040016-A	簡易式体感マット	粘着固定無しでも簡単に設置でき、濡れ路面での使用も可能な簡易式体感マット	道路維持修繕工
3	TH-020040-A	デルタクッション	再生ウレタン材を活用した車両用保安防護体	付属施設
4	TH-070005-A	カプセルプリズム型高輝度路上工事中用標示板(工事看板)	路上工事中用標示板向けカプセルプリズム型高輝度再帰反射シート	仮設工
5	SK-040007-A	ピカコン	気泡抜き取り具及びフレッシュコンクリート表面仕上げ方法	コンクリート工
6	KT-980368-A	Qマット	コンクリート用湿潤・保温養生マット	コンクリート工
7	TH-020038-A	ニューネオソーラー	ニッケル水素電池を使用した長寿命ソーラー式道路工事中用保安灯	付属施設
8	KT-050017-V	ハット形鋼矢板900	建設コスト削減に寄与する新断面鋼矢板	仮設工
9	KK-990050-A	ディスバライト	コンクリート打継目処理剤	コンクリート工
10	KT-070054-A	ジョイントテックST-400	洗い出し不要の打ち継ぎ処理剤	コンクリート工
11	CB-980012-V	パワーブレンダー工法(スラリー噴射方式)	浅層・中層地盤改良	共通工
12	HR-990005-V	サンタックスパンシール誘発目地材	止水機能を有するコンクリート誘発目地材	コンクリート工
13	HK-040003-A	KB目地	ノンコーキング式コンクリートひび割れ誘発目地材	コンクリート工
14	HK-030007-V	モルタル・コンクリート用ひび割れ抑制ファイバー	クラックバスター	コンクリート工
15	QS-020033-A	太平洋ハイパーエクスパン	低添加型膨張材	コンクリート工
16	CB-980008-V	残存型枠工法「残存型枠プロテックピアスワンダー」	施工性に優れたコンクリート製残存型枠	コンクリート工
17	KK-980055-A	キャスポル	簡易支持力測定器	調査試験
18	CG-060005-A	アクアマットSタイプ	コンクリート傾斜面および水平面の湿潤養生マット	コンクリート工
18	HK-030032-V	ランプルストリップス(センターライン対応型)	警告型切削溝による正面衝突事故対策	付属施設
20	KT-050007-V	Stコン(エステーコン)	新名称「ヒットコン」:Pコーン穴埋め処理材(誰でも簡単に確実にしかも均一に綺麗に出来る。)	コンクリート工

4. 活用件数の多い工種(上位10位の工種)

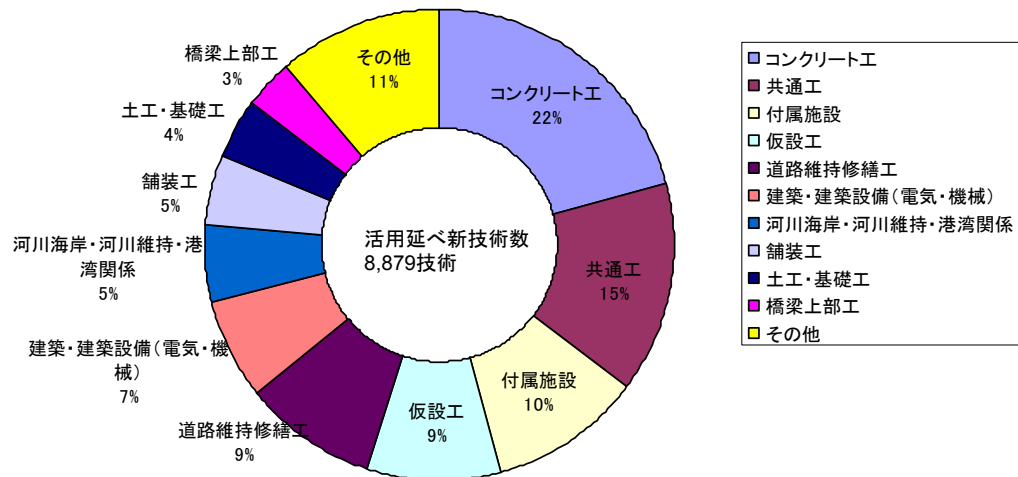
● 活用延べ新技術数の工種別内訳は下記のとおりです。

平成20年度において、活用述べ新技術数8,879件のうち、もっとも多くの新技術が使われた工種は、「コンクリート工」でした。

ついで、「共通工」、「付属施設」、「仮設工」、「道路維持修繕工」の順に、多く活用されていました。

「コンクリート工」で多く活用されていた新技術は、型枠、コンクリート打設、鉄筋、養生に関する新技術などでした。

「共通工」では、法面、擁壁、「付属施設」では道路付属物、防護柵設置に関する新技術、「仮設工」では、矢板、仮設材設置撤去に関する新技術、「道路維持修繕工」については橋梁補修補強、道路除草に関する新技術などが多く活用されていました。



活用延べ新技術数の工種別内訳

活用延べ新技術数の工種別内訳

順位	工種	新技術の内容	活用件数 (述べ技術数)
1	コンクリート工	型枠、コンクリート打設、鉄筋、養生等に関する新技術	1,841
2	共通工	法面、擁壁、軟弱地盤処理等に関する新技術	1,301
3	付属施設	道路付属物、防護柵設置、路側工等に関する新技術	918
4	仮設工	矢板、仮設材設置撤去、足場支保工に関する新技術	829
5	道路維持修繕工	橋梁補修補強、道路除草、路面切削等に関する新技術	813
6	建築・建築設備	仮設等に関する新技術	606
7	河川海岸・河川維持・港湾関係	護岸基礎ブロック設置、袋詰玉石等に関する新技術	464
8	舗装工	アスファルト舗装、薄層カラー舗装に関する新技術	424
9	土工・基礎工	鋼管・既製コンクリート杭打設、場所打ち杭等に関する新技術	369
10	橋梁上部工	ポストテンション桁製作、鋼橋架設等に関する新技術	309
	その他	—	1,005
	合計		8,879

5. 有用な新技術

- 平成20年度には、各地方整備局において、それぞれ設計比較対象技術を11技術、少実績優良技術を6技術、活用促進技術を6技術選定しました。

さらに、各地方整備局から推薦された設計比較対象技術、少実績優良技術、活用促進技術から、推奨技術を1技術、準推奨技術を7技術選定しました。

平成20年度に選定された有用な新技術

有用な技術の名称	NETIS番号	技術名称	副題
推奨技術※ (1技術)	HK-030032-V	ランブルストリップス (センターライン対応型)	警告型切削溝による正面衝突事故対策
準推奨技術※ (7技術)	KT-980128-V	地中控え護岸工法	TRD工法を用いた多自然型低水護岸工法
	CB-990024-V	プレキャストコンクリート基礎工「ベースブロック」	法覆工に使用する基礎工のプレキャスト製品
	KT-990126-V	KaNaFゲート	河川の樋門・樋管用浮体構造起伏ゲート
	TH-990145-V	オートゲート(門柱レス樋門)	無動力自動開閉ゲート
	CB-000009-V	場所打ち工法「ノバル工法」	スクルー・装着・グラウト併用岩盤玉石削孔機
	KT-000101-V	Kui Taishin-SSP工法	パイルベント橋脚の耐震補強
設計比較対象技術 (11技術)	KK-980067-V	リテラ(BZ210・BZ200・BZ120)	自走式土質改良機
	CG-980018-V	多機能フィルター	被覆材による法面保護と植生
	CB-980023-V	ソイルクリート工法	簡易吹付のり砕工
	CB-980025-V	ダイブラハウエル管による道路下カルバート工の設計・施工方法(高耐圧ポリエチレン管)	—
	QS-980006-V	インシチュフォーム工法(INS工法)	管渠更生工法
	CB-980117-V	テクスパン工法	3点ヒンジ構造によるプレキャスト・アーチカルバート工法
	CB-990024-V	プレキャストコンクリート基礎工「ベースブロック」	法覆工に使用する基礎工のプレキャスト製品
	QS-990014-V	フォルカトウシート工法	連続繊維シートによるコンクリート構造物の補修・補強工法
	KT-990126-V	KaNaFゲート	河川の樋門・樋管用浮体構造起伏ゲート
	QS-030044-V	スチール透水蓋工法	排水性舗装におけるスチール透水蓋を用いた側溝改造工法
	SK-050011-V	ラック足場工法	ラックレール式移動吊足場
少実績優良技術 (6技術)	KT-000101-V	Kui Taishin-SSP工法	パイルベント橋脚の耐震補強
	HK-040009-V	スノテップ	小段付法面雪崩予防工
	KT-050086-V	ツイン・ブレードミキシング工法	中層混合処理工法
	CB-050020-V	デジタル画像による、構造物の点検・分析支援システム	デジタルカメラの画像データを利用し、画像処理技術で構造物の点検や劣化分析を支援する。
	KK-050075-V	低層吸遮音壁「美サイレント」	植栽樹付低層遮音壁(本体上部に容易に透光板が設置可能)
	KK-060001-V	簡易舗装表面補修材「Uコート」	短期施工と耐久性を両立させた簡易補修材
活用促進技術※ (6技術)	KT-980191-V	鋼製地中連続壁工法	薄壁型、現場省スペース型の連続地中壁工法
	HR-990005-V	サンタックスパンシール誘発目地材	止水機能を有するコンクリート誘発目地材
	KT-980128-V	地中控え護岸工法	TRD工法を用いた多自然型低水護岸工法
	QS-020022-V	侵食防止シート工	植生の耐侵食力を活用した堤防のり面や河岸の侵食防止工(のり覆工)
	CB-000013-V	排水性舗装用区画線消去工法「リムバー」	超高圧水表面処理工法
	TH-990145-V	オートゲート(門柱レス樋門)	無動力自動開閉ゲート

※推奨技術・準推奨技術・活用促進技術は、平成20年度に選考が行われ、平成21年度に選定されたもの。